

笑ってごらん

第 609 号 H. 30. 1. 10 発行

～今日のことば～

いにしへの道を聞きても唱へても
我が行ひにせずばかひなし

(島津日新公いろは歌より)

◇◆新年あけましておめでとう！本年も昨年に引き続きよろしく！ 皆さんはこの新年をどんな気持ちで迎えたでしょうか？ 大晦日の深夜、ニューイヤーカウントダウンをした人もいることだろう。物理的には時間の流れは何も変わらず、クリスマスだろうが大晦日だろうが関係なく時は刻まれ、積み重ねられている。しかし、人って勝手なもので、そこに意味を持たせ特別扱いをしている。そうすることによって、自分自身の気持ちをリセットし、前向きな気持ちに切り替えようとしているのだと思う。誕生日を迎え一つ歳を取り、思い新たに頑張り始めることもあるであろうし、そういう記念日が無くとも、あるきっかけを機に新たな取り組みを始めることだってある。どのような「契機」であろうと、蔑（ないがし）ろにせず大事にして欲しい。始業式でも話したように、この3学期は『完成の学期』と言われている。と同時に、『新年度の0学期』でもある。是非、この期間を無為に過ごすのではなく、成果を上げて欲しい。 ◇◆今年「戌年」である。

「犬」から点を取ると「大」の字になるので、『点(、)を取って大勝利！』との謳い文句を掲げる（どこかの予備校だったと思うが）CMを目にした。まったく・・・、上手いこと言うもんだ。ところで、犬の年なのだが、干支になると「戌」という文字を使う。なんで？不思議に思ったので調べてみた。こういう時、現在はネットでちゃちゃっと調べることができるので便利である。インターネットが無かった頃は辞書を引いてみたり、わざわざ図書館へ赴いて調べたりしていたことを思えば、「なんと便利な世の中になったものか・・・」と、一人感慨に耽（ふけ）ってしまうのであった。おっと、脱線、脱線・・・。あ、どうして「戌」の字を使うか調べてみると、面白いことが書いてあったので紹介する。実は、子・丑・寅・卯・・・となった干支の順番には「諸説あり！」なのだそうだ。具合が悪くなったお釈迦様に見舞いに行った順、とか、お釈迦様のところへ新年に挨拶に来た順に、一年ずつその年を守ってもらうことにした、とか言われている。昔から「犬猿の仲」と諺にもあるとおり、「いぬ」と「さる」はケンカばかりしていたので、その仲裁役として「とり」が間に入った、などの説もある。で、「戌」の字についてだが、もともと「滅びる」という意味があったらしい。ただ、滅びるという意味は決してマイナスのイメージではなく、「木が枯れ、そして再び新たな生命が育つ」といった生命のつながりの意味が込められているのだという。前年の「酉年」は商売繁盛の年とされていることから、酉年の収穫を行うのが戌年であるともされている。つまり新しい生命の始まりを予感させる縁起の良い年なのだ。これまでの悪習慣を断ち切ったり、培った努力を具体的なカタチにするなど、実を結ぶ年であることを意識した上でこの一年を送ってみて欲しい。

◆ちなみに、干支とは正しくは「十干十二支」のことで、十干（甲・乙・丙・丁・・・）と十二支を組み合わせたものであり、最初の一文字を組み合わせると「甲子（きのえね）」となるが、高校野球で有名な「甲子園球場」は干支が甲子の年にできたのでこの名前がついたとされている。2018年は「戌戌（つちのえいぬ）」となる。犬は社会性が有り、忠実な動物であることから、戌の干支は「勤勉で努力家」という特徴を示す。



感謝道

◇◆昨年末、本校も出場した全国高校女子サッカー選手権大会。本校チームは惜しくも2回戦敗退であった。神戸まで応援に馳せ参じた10名の先生方も肩を落とした。得られたものも大きかろうと思う。是非今後に繋げて欲しい。夢と感動をありがとう！